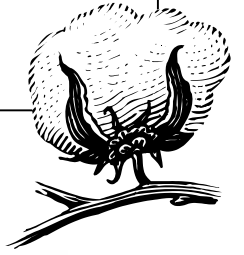


東日本大震災復興応援企画

ふくしまオーガニックコットン プロジェクト 農業支援ボランティア活動を実施しました！



6月8日(日)福島県いわき市小名浜にて行われた
「ふくしまオーガニックコットン プロジェクト」に
当社グループの有志 計43名が参加しました！



※前日までの大雨の影響により、農作業の実施は見送りとなりました。
自宅でも栽培できるオーガニックコットンの種（コットンパイプ）をいただき、
いわき市内をバスで巡って、被災地の現状や復興の様子を見学してきました！



NPO 法人ザ・ピープルの
甘南備さんのガイドで
被災地をバスで巡ります



コットンパイプは
仮設住宅で暮らす方々が
制作されています



活動予定地のコットン畑



小名浜港

津波は港の大きなコンテナをも動かす威力で、壊滅的な被害をもたらしました。現在は施設の復興が進み次第に元の町並みに戻りつつあります。



永崎地区・豊間薄磯地区

いわき市内で一番被害が大きかった地区。
住宅街が広がっていた土地は跡形もなくなっており、
所々に津波の爪痕が残る建物が残っていました。
海岸線では防波堤の建設が進み、内陸では高台移転のための
区画整備・建設が進んでいました。

ふくしまオーガニックコットン プロジェクトは、津波の塩害被害や原発の風評被害によって使用できなくなっている休耕地を活用し、塩害に強くセシウム吸収率が低いと言われている綿花を、有機栽培で育てようという活動です。休耕地の有効活用は、田畑の利用を中断せざるを得ない農家への支援の他、田畑に生息する生物・微生物などの生態系保全にも貢献でき、環境保全型農業として注目されています。また、地域の連携強化や新たな雇用創出にもつながる活動です。

県内で行われる綿花栽培（種まき・苗の定植・草とり・収穫・綿繰り・製品づくり）には、農家や地域の市民・学校・NPO・企業など、様々な人が参加しています。活動がスタートした2012年には、市内15か所、約1.5haの栽培地に、首都圏等からのべ1,500人ものボランティアが集まりました。収穫された約300kgの綿は製品化され、種は翌年の栽培に利用されています。

また、このプロジェクトは、綿を含む繊維自給率が0%の日本において、福島から新しい農業と繊維産業を作り出そうという試みでもあります。前年に収穫したオーガニックコットンの綿と種でできた人形（コットンベイベ）を通じて全国各地での綿花栽培を呼びかけ、収穫されたコットンは福島に送って製品化します。被災地から遠く離れていても、復興を応援する新しい支援のカタチです。



東日本大震災から3年余りが経過した今、私たちにできることは何か…

当社は、東北の農業支援や地域振興のためにこのプロジェクトへの参画を決定しました。残念ながら当日の活動はできませんでしたが、参加者が持ち帰った綿花の種からは、たくさんのオーガニックコットンを作ることができます。

遠く離れていても、東北を応援できるプロジェクトへの参加を通じて、少しでも東北の皆さまのお役に立つことができると考えています。

【参画プロジェクト概要】

「ふくしまオーガニックコットン プロジェクト」 主催：NPO法人 ザ・ピープル 他

※詳細はHP <http://doyoucotton.jimdo.com/> をご覧下さい。



昨年栽培された綿花の成長の様子（上段）
収穫された綿花で制作された人形「コットンベイベ」（下段）

コットンの種は希望のタネ

